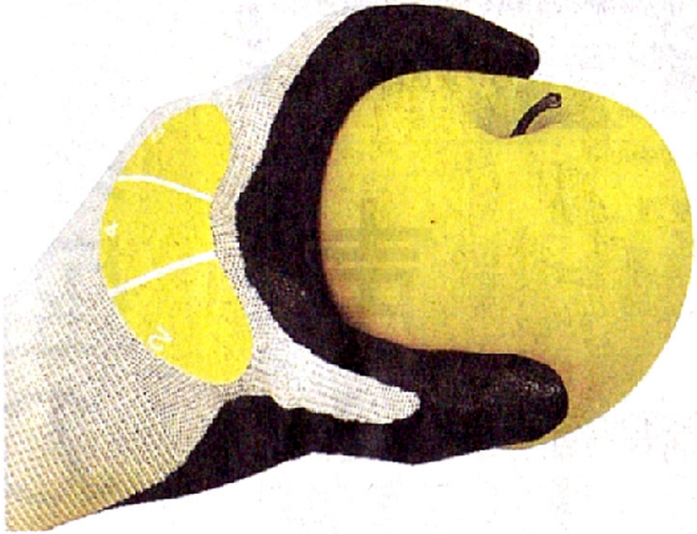
熟成チェック手袋 続々

黄色のリンゴ用 新登場

リンゴが熟したかどうか一目で見分けられるカラー見本が付いた手袋を、松阪市の三重化学工業が受託生産し、今月から青森県りんご協会（弘前市）で販売が始まった。リンゴの品質をそろえて出荷し、市場価値を高めるのが狙いだ。


黄色いリンゴの収穫用手袋。親指の付け根に3種類の色見本が付いている＝三重化学工業提供

手袋は1組370円。黄色のリンゴ「きおう」「トキ」「星の金貨」「シナノゴールド」の4品種の収穫に使える。親指の付け根に3パターンの色見本が付いており、熟したかどうか照合できる。これまでは収穫する時にカラーチャート板をポケットから取り出し、確かめていた。色見本付きの手袋で、その手間が省けるという。

同協会によると、昨年10月に台風17号が接近したため、リンゴが熟す前に収穫する農家が相次ぎ、小売価格が前年の半値以下に落ち込んだという。この「苦い経験」を踏まえて、今年は「甘い」リンゴをめざす。台風後に、同社に手袋の生産を依頼した。色見本は、熱を加えて手袋に転写した。果物の微妙な色合いは、中国にある同社の協力工場で独自に調合したという。

すきま市場狙い トマト・ユズも計画

同社は、ミカンと柿用の手袋計3種類も、三重県中央農業改良普及センターと一緒に開発し、2011年から販売している。今年秋の収穫期に合わせて「富有柿」用も新たに販売するほか、トマトやユズ用の手袋も開発に取り組んでいる。

同社の山川大輔専務(35)は「この手袋は、売れる産地や時期が限られている。こうした『すきま市場』を狙って、特徴のある商品を開発していきたい」と話している。

リンゴの手袋の問い合わせは同協会（0172・27・6006）。ミカン、柿の手袋は同社（0598・51・2361）へ。

（高木文子）